

ささえる、つなげる、創造する

ふじのくに文化情報センター

FUJINOKUNI Art / Culture INFORMATION CENTER

活動記録

2015-2020
Documents



ささえる、つなげる、創造する

ふじのくに文化情報センター

FUJINOKUNI Art / Culture INFORMATION CENTER

公益財団法人静岡県文化財団・ふじのくに文化情報センター

〒422-8019

静岡市駿河区東静岡二丁目3番1号 TEL.054-203-5710 FAX.054-203-5716

URL. <https://www.shiz-bunka.com/>

ふじのくに文化情報センター

ふじのくに文化情報センターは、文化芸術活動に取り組む個人や団体をささえ、つなげ、静岡県内に文化芸術がわきあがる環境をともに創造するため、平成27年4月に開設しました。

開設以降、センターの取り組みにより横断的なネットワークが構築され、センターを中心としたネットワークの活用により、県内各地で新たな文化芸術の創造と連携が生まれています。



Contents

ささえる	静岡県文化情報サイト「ふじのくに文化情報」	3
	ふじのくに文化プログラム推進事業補助金	4
	ふじのくに地域文化活動賞	5
	文化芸術の総合相談窓口	6
	ふじのくに#エールアートプロジェクト	6
	ミニ講座「こかげのまなびば」	7
つなげる	ふじのくに文化情報フォーラム	11
	ふじのくに文化情報フォーラム 個別テーマ実践プログラム	15
	めぐりアート ^{プラス}	17
	グランシップ文化情報サポーター	17
創造する	おわりに	18



ささえる、つなげる、創造する。そのためのセンター機能。

- 県内の文化芸術活動を側面的に支援する全県的なセンター機能として、観る人、創造する人、運営する人、すべての文化交流の中心となり、文化・芸術に関するさまざまな情報を集め、提供する。
- 地域文化の振興をはかるため、文化を支える人たちのネットワークを通して、活動団体等の支援や相談窓口となるなど、文化芸術に関する総合的な機能を担う。
- 運営には、静岡県文化財団がこれまで蓄積した情報やノウハウを最大限に活用する。

ふじのくに文化情報センター



ささえる

- 静岡県文化情報サイト「ふじのくに文化情報」
- ふじのくに文化プログラム推進事業補助金
- ふじのくに地域文化活動賞
- 文化芸術の総合相談窓口
- ふじのくに#エールアートプロジェクト



つなげる

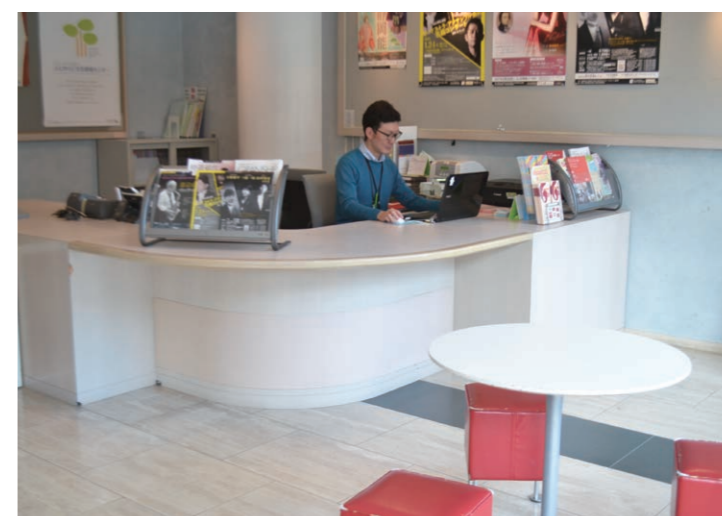
- ミニ講座「こかげのまなびば」
- ふじのくに文化情報フォーラム



創造する

- ふじのくに文化情報フォーラム 個別テーマ実践プログラム

人と情報が行き交う場



グランシップ1階 ふじのくに文化情報センター



ミニ講座「こかげのまなびば」の会場や文化芸術の相談窓口として、県内で文化活動をする人々が集い、交流する場となっているとともに、各地で開催される公演やイベントのチラシ・ポスター、助成金情報、募集情報等文化芸術活動に役立つ情報を配架し、自由に閲覧ができる。

静岡県文化情報サイト「ふじのくに文化情報」

県内の文化芸術活動を「ささえる」「つなげる」「創造する」文化情報センターの活動の軸として、さまざまなコンテンツを提供する総合サイト。

サイトでは、文化団体やアーティストが、自身の活動やイベント情報等を自由に登録・発信することが可能。登録されたイベント情報は、グランシップ広報誌(年4回・各35,000部発行)に掲載し、催事情報提供の橋渡しを担う。また、文化施設検索、助成情報など、文化活動に役立つ情報も提供している。その他、地域に伝わる民俗芸能や文化団体の活動をレビュー形式で紹介するなど、県内の文化芸術の掘り起こしと発信を行い、県民に広く紹介している。



■主なコンテンツ

- 文化団体、アーティスト情報
- 文化施設情報
- 県内イベント情報
- 助成金情報
- 文化関連最新ニュース
- カルチャーレビュー 等

■その他

- SNS (facebook、Twitter) の運営
- メールマガジンの配信

■登録数

- 文化団体300件
- アーティスト127件
- 文化施設151件 (2020年12月末時点)

■アクセス数(延べ数)

対象年度	表示ページ数(ページ)	アクセス数(人)
平成27年度	238,985	71,320
平成28年度	623,857	147,726
平成29年度	916,140	194,403
平成30年度	1,691,443	221,622
令和元年度	1,636,551	246,476

事業の成果と課題

- 静岡県内で活動する文化団体やアーティストの情報を集約した、貴重なデータベースである。
- 文化芸術活動を行う人も鑑賞する人も利用できる、幅広いコンテンツを提供している。
- SNSを活用し、これまでセンターと接点のない方にも広く情報発信できた。
- 文化芸術関係者が、今欲しい情報、知りたい情報のニーズを汲み、常に先回りして提供することが求められる。
- 前身のサイト「しずおかの文化情報(平成21年〜)」開設当初と比べ、SNSなどの普及により個人で情報発信が手軽にできる環境になったため、サイトの目的・役割を整理した上で、コンテンツの見直しや、効率的なサイト運営を検討する必要がある。

ふじのくに文化プログラム推進事業補助金

静岡県文化財団では長年にわたり、県内の文化団体や個人が実施する文化事業、活動に補助金を交付している。

平成28年度からは、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を機に、文化プログラムの一環として行われる県内の多彩な文化芸術活動や文化をささえる活動を発展・継承し、県内外に発信するため、補助金を交付。静岡県全体の文化力向上と、文化芸術がわきあがる環境づくりを目指している。また、団体補助の交付団体には、定期的な面談により、活動状況の確認や意見交換を実施し、団体の課題把握と継続的な支援に努めている。



採択団体の活動の様子

■事業補助(半年度補助)

各種の文化事業を支援

- ①住民参加型自主企画事業 ②広域的芸術文化事業 ③国際文化交流事業
補助額:上限30万円、下限10万円 ※自己負担額の1/3以内

■団体補助(複数年度補助 ※原則3年間)

団体組織の自立やステップアップのための投資的活動を支援

- ①「ささえる」活動団体の自立に向けた活動
例)人材育成のための研修参加費やノウハウ獲得のための視察経費等
②しずおかの文化芸術団体のステップアップ活動
例)外部講師による研修会実施経費や広報活動としての団体PR用パンフレット制作費等
補助額:上限30万円(最終年度は初年度の1/2に逓減)

■交付決定数

対象年度	事業補助	団体補助	
		ささえる活動団体の自立に向けた活動	しずおかの文化芸術団体のステップアップ活動
平成27年度	18	2	-
平成28年度	16	2	1
平成29年度	12	-	-
平成30年度	16	2	1
令和元年度	15	5	1
令和2年度	13	-	-

※平成27年度は「ふじのくに文化芸術振興補助金」

事業の成果と課題

- 団体補助は、複数年にわたり団体基盤の強化やステップアップを目的とした取り組みを支援し、団体の成長を促す特徴的な制度である。交付団体には定期的な面談を行い、活動状況の調査や助言などの伴走支援が好評である。
- 文化芸術活動者の補助金制度に対する理解促進や申請手続きのフォローの充実を図るため、セミナーや勉強会などの開催が必要。
- 交付事業の評価については、専門家も交え評価システムの検討、構築が課題である。

ふじのくに地域文化活動賞

静岡県文化財団では、県民文化の振興を通して県民生活の向上と活力あふれる郷土づくりに資するため、昭和62年度から県内各地で地域活性化に貢献し優れた文化活動に取り組む文化団体を表彰している。これまで延べ1,000団体以上の応募があり、芸術文化、生活文化、まちづくりなど文化により地域に活力を与える団体が数多く受賞している。



表彰式



パネルで活動の様子を積極的に紹介

■第1回(昭和62年度)～第33回(令和元年度)実績

総応募団体数:延べ1174団体

総受賞団体数:延べ275団体(活動賞・奨励賞・努力賞・特別賞合計)

■地域文化活動賞 受賞団体

表彰回(年度)	団体名(事務局所在地)	表彰回(年度)	団体名(事務局所在地)
第1回(昭和62年度)	該当なし	第19回(平成17年度)	静岡木遣保存会東嘉会(静岡市)
第2回(昭和63年度)	該当なし	第20回(平成18年度)	NPO法人駿河裂織倶楽部(静岡市)
第3回(平成元年度)	日本雪だるまの会(静岡市)	第21回(平成19年度)	静岡県現代舞踊協会(磐田市)
第4回(平成2年度)	「富士の型染」グループ(富士市)	第22回(平成20年度)	劇団夢舞'92(焼津市)
第5回(平成3年度)	伊豆史談会(三島市)	第23回(平成21年度)	静岡混声合唱団TERRA(静岡市)
第6回(平成4年度)	おかあさん人形劇団「星の子」(静岡市)	第24回(平成22年度)	島田鹿島踊保存会(島田市)
第7回(平成5年度)	磐田ミュージカル制作実行委員会(磐田市)	第25回(平成23年度)	静岡県オペラ協会(静岡市)
第8回(平成6年度)	該当なし	第26回(平成24年度)	NPO法人掛川の現代美術研究会(掛川市)
第9回(平成7年度)	人形劇団ふもと(富士宮市)	第27回(平成25年度)	「龍水の都」文化体験プログラム実行委員会(浜松市)
第10回(平成8年度)	三島ゆうすい会(三島市)	第28回(平成26年度)	NPO法人伊豆学研究会(伊豆の国市)
第11回(平成9年度)	湖西歌舞伎保存会(湖西市)	第29回(平成27年度)	志太子どもミュージカル実行委員会(焼津市)
第12回(平成10年度)	浜松スペースハンタークラブ(浜松市)	静岡昆虫同好会(静岡市)	
第13回(平成11年度)	浦川歌舞伎保存会(佐久間町)	第30回(平成28年度)	静岡県童謡の会(静岡市)
第14回(平成12年度)	富士てがみまつり実行委員会(富士市)	K's pro.(静岡市)	
第15回(平成13年度)	文芸フォーラム静岡(静岡市)	第31回(平成29年度)	清水郷土史研究会(静岡市)
第16回(平成14年度)	雄踏歌舞伎保存会「万人講」(雄踏町)	第32回(平成30年度)	みらいネット浜松(浜松市)
第17回(平成15年度)	NPO法人伊東市文化財史蹟保存会(伊東市)	第33回(令和元年度)	富士の山ビエンナーレ実行委員会(富士市)
第18回(平成16年度)	小泉八雲顕彰会(焼津市)		

※受賞時の市町

事業の成果と課題

- 30年以上の長年にわたり、県内各地で優れた活動をしている団体を発掘し、広く紹介する機会となっている。
- 受賞団体は「ふじのくに文化プログラム推進事業補助金」に優先的に採択する仕組みを設けており、顕彰だけでなく活動の実践までの支援につなげた。また、ふじのくに文化情報フォーラムへの参加など、センターの他事業との連携の機会を作ることができた。
- 公募型の顕彰事業のため、応募数の伸び悩みが課題である。事業のリニューアルを検討するとともに、受賞団体を更に積極的に紹介、活用する仕組みが必要である。

文化芸術の総合相談窓口



文化芸術に関わる悩みや相談事に対応し、平成28年10月に開設。面接、電話、メールによる総合案内役として、相談窓口を運営している。月に1回、「センター長の窓口相談日」を設置し、文化芸術活動の幅広い悩みに対応している。

■相談例

伝統芸能関係者

- 申請可能な補助金情報を教えてほしい。
- 活動への参加者が減少傾向にあり、活動の意義や内容を周知してもらうためのPRはどうしたらよいか。

音楽関係者

- 演奏会チラシを作成するにあたり、具体的なレイアウトのアイデアをもらいたい。

イベント企画者

- ボランティアを募集するにあたりどんな仕組み作りが必要か。

■相談件数

相談内容件数	H28年度(10月～)	H29年度	H30年度	R1年度
活動に関すること	3	9	5	12
運営に関すること	0	1	1	0
企画内容	3	2	3	1
助成	5	16	18	23
マッチング	1	0	0	1
広報	1	3	4	3
情報提供(照会)	3	5	9	14
合計	16	36	40	54

事業の成果と課題

- 相談者の話を丁寧に聞きながら課題の整理や解決の糸口をアドバイスすることで、抱える課題がクリアになり、次の方向性を示す一次相談として機能している。
- 広報を強化した結果、年々相談件数が増加している。
- 県内で文化芸術活動を行う人との直接的な接点の場となり、活動を行う上での課題や悩みを拾い上げる貴重な機会となっている。
- 文化に特化しながらも幅広い相談内容を受けとめ、さらに専門家などの支援につなげていく機能は重要性が高く、アーツカウンシル機能の基盤として継続する必要がある。

ふじのくに#エールアートプロジェクト

静岡県は、令和2年7月に“新型コロナウイルス感染拡大で大きな影響を受けた文化芸術の担い手を支援するプロジェクト”を立ち上げた。ふじのくに文化情報センターは事務局として、「①県内のアーティストや文化団体が実施する事業への助成」、「②活動や運営の相談」の2本柱で文化芸術活動支援を進めている。

■ワンストップ相談窓口

静岡県内で文化芸術活動を行うアーティストや文化拠点の運営者、舞台技術やイベント運営に関わる方、アマチュア活動家等をサポートする期間限定の相談窓口。

文化芸術活動支援

- 新しい表現方法、発信方法を考えたい。
- 再開に向けて安全に活動を行うにはどうしたらよいか等。

その他の支援(経営、税務、労務、法律相談など)

- 収入が減り生活が苦しいので、創作や発表が続けられない。
- 自分が何のサポートを受けられるかわからない等。

相談実績(12月末現在):257件(助成金、コロナ対策、芸術文化活動等)

■ふじのくに#エールアートプロジェクト助成

静岡県内のプロのアーティスト等が行う、「新しい生活様式」に対応した文化芸術活動の再開を支援。「感染症対策の制約を新たな表現に生かす演出」「オンラインの有効活用」など、アーティストの視点を生かした創造的な試みに助成する。
募集期間:2020年7月27日(月)～8月14日(金) 交付決定数:57件



告知用チラシ

ミニ講座「こかげのまなびば」

ふじのくに文化情報センター開設とともにスタートし、毎月2回、地域の文化芸術活動に携わる人々の交流・対話の場として回を重ねてきた。2019年6月には100回を数え、音楽、舞台、アートに限らず、“文化”を幅広くとらえ、参加者の日常に“文化”との接点をもたらしている。静岡県内で活躍する文化活動実践者の話を身近な距離で聞いて、交流できるのも魅力のひとつ。



ミニ講座 こかげのまなびば 開催一覧 (2015.4.14～)

※開催時の所属、以下同じ。

開催回	講師	所属等	テーマ
第1回	平野雅彦	ふじのくに文化情報センター長	文化は何かに役立つの?
第2回	河合弘倫	静岡県文化財団職員	グランシップトレインフェスタから文化支援を考えてみよう
第3回	河村優子	静岡県文化財団職員	地域の文化施設について考えよう～イギリスのミュージアムを参考に～
第4回	河合弘倫	静岡県文化財団職員	あなたにとって「写真」とはなんですか?
第5回	平井由己子	静岡県文化財団職員	夏の音楽祭「グランシップ 音楽の広場」その裏側とは?!
第6回	堀合亘	静岡県文化財団職員	補助金を取りにいこう!
第7回	渡邊麻恵	静岡県文化財団職員	グランシップサマーフェスティバルと広報
第8回	河合弘倫	静岡県文化財団職員	葦山反射炉から文化支援を考える?
第9回	平野雅彦	ふじのくに文化情報センター長	今、広告ってなんだ
第10回	岡本國治	(有)岡本戦略広告事務所	表現は、だれのためのもの?
第11回	山本六三	ふじのくに地域・大学コンソーシアム事務局長	文化事業に携わる人に伝えたい。「大学生って、〇〇なんです」。
第12回	道川綿未	島田市地域おこし協力隊	小さな村から世界への発信
第13回	原田さやか	玉川きこり社代表	「きこりと子育て」について考える
第14回	鈴木智子	静岡時代代表	大学生発でつくる、「学び」を切り口とした静岡県の新しい魅力
第15回	山下久幸	作曲家	即興的な演奏によって生まれる音楽の響き
第16回	近藤大輔	現代美術家	アートとわたし
第17回	平野雅彦	ふじのくに文化情報センター長	学びをまねぶ ～小さな学びの場の可能性～
第18回	大野仁志	大野写真研究室 代表	未来のあなたへ～写真の文化を残すために街の写真屋が考えること～
第19回	下山晶子	静岡ポタニカ代表	静岡でアーティストが活動できる場をつくるということ
第20回	金澤実幸	演芸情報誌「東海落語往来」編集人	落語と私と静岡と
第21回	小林摩湖	グランシップ登録アーティスト	こどもたちの想像力を育てるために音楽ができること
第22回	千野和子	ふじのくに未来財団副代表	活動を支える財源確保
第23回	平野雅彦	ふじのくに文化情報センター長	最近注目アーティスト
第24回	五味響子	静岡市番町市民活動センター長	市民活動センター活用術
第25回	高橋透	グランシッププロデューサー	ファンドレイズにまつわる米国のあれこれ
第26回	江成博行	NPO法人静岡フィルハーモニー管弦楽団代表	オーケストラは別腹!? ～アマチュア・オーケストラの活動～
第27回	杉山稔明	志太こどもミュージカル	総務は「文化力」なり～地域に根付き、未来につなげる志太こどもミュージカル10年の試み～
第28回	椿原靖弘	フェルケール博物館 学芸部長	博物館の役割
第29回	井上泉	シズオカオーケストラ	まちは、ひとで、できている。【みんなのnedocoプロジェクト】でディープな静岡観光を!
第30回	坂野真帆	(株)そふと研究室	私が旅の仕事に関わるわけ
第31回	織田きりえ	ダンサー・振付家	夢の仕事 ダンサー
第32回	岩田恵子	トランペット奏者、CASA BRASS ENSEMBLE代表	金管アンサンブルの魅力
第33回	正守利彦	NPO法人オールしずおかベストコミュニティ	オールしずおかベストコミュニティで働いて思うこと
第34回	吉野亜湖	日本茶道塾	お茶ってこんなに楽しい～お茶が持つ文化力～
第35回	山本寛子 みさきあきこ	しろくまLaBO	ゆる楽しい地域づくりのススメ
第36回	繁田和美	空間デザイナー、施工アドバイザー	グランシップアートコンパ6年間の軌跡

開催回	講師	所属等	テーマ
第37回	横田珠佳	静岡県文化財団職員	あなたの文化芸術活動を応援!～センターの相談窓口～
第38回	渡村マイ	NPO法人SACLABO	持続可能な地域づくり～おんぼく開催の意味～
第39回	川原嶋知洋	静岡大学教育学部美術教育系列	相手の力を引き出す～様々なデザインプロジェクトを通して～
第40回	鷲巣恭一郎	駿河和染職人、Maison TEAxtile代表	さあ始めよう～お茶染のススめ～
第41回	平野雅彦	ふじのくに文化情報センター長	新しいワークショップの模索
第42回	渡会美帆 野村さわ子	現代音楽のつどい	音楽/音の深みにはまる
第44回	三輪昌弘	焼津市大井川文化会館ミュージコ館長	ミュージコピココンサート
第45回	古川春美	打楽器奏者、グランシップ登録アーティスト	音楽に親しむ～聴覚特別支援学校でのアウトリーチをととして～
第46回	中山慎人	ピアノ調律師、すみやグッティ	音楽の裏方として
第47回	孕石直樹	BARATEE編集長	(静岡の)大人が楽しく暮らすためには?
第48回	前田直紀	藤枝市陶芸センター館長、陶芸作家	新しい陶芸観?セラミックコミュニケーター?!
第49回	柴山広行	丁子屋14代目	14代目と楽しむ!今だからこそこの「江戸エンターテインメント」(超入門編)
第50回	今井洋志	静岡フューチャーセンター・サポートネットESUNE	フューチャーセンターのススめ
第51回	さかいともこ	動物園散歩人	動物園はだれのもの?
第52回	鈴木一行	琉神主宰	ステージのチカラ～静岡から発信する舞台芸能の世界～
第53回	奈良岡将英	静岡新聞社・静岡放送、ミュージシャン	楽しいと思えることをやれ!!～奈良岡将英の場合～
第54回	菅沼新太	大道芸ワールドカップ実行委員会	あなたがやりたい自分になれる～大道芸ワールドカップボランティアスタッフのヒミツ～
第55回	丹羽崇元	一乗寺 住職	見えないものをつなげる方法
第56回	青島由佳	AOSHIMA MUSIC WORKS、フルート奏者	トラヴェルソと私～パッサが聴いていた音～
第57回	奥野晃士	SPAC俳優	アウトリーチ、リーチしなければただのアウト
第58回	平野雅彦	ふじのくに文化情報センター長	フォーラム2017秋の楽しみ方
第59回	林夏子 曾我容子	静岡DRESS部運営幹事	あなたのサードプレイスはどこですか?～静岡DRESS部でやってみたこと～
第60回	森本京子 陰山泰	K's pro. 代表、ダンサー 俳優、演出家	舞台で表現するって何だろう?
第61回	小林稔和	(株)DARA DA MONDE 代表、編集者	魅力の見つけ方と伝え方
第62回	漆畑孝亮	オーボエ奏者、グランシップアウトリーチ登録アーティスト	オトナのためのアウトリーチ～こかげのまなびば編～
第63回	大石歩真 兒玉絵美	クロスメディアはまだ	無人駅をひらくと地域がひらく～無人駅アートプロジェクトとまちづくり～
第64回	大木敏行	かけがわ茶エンナーレ実行委員長、(株)資生堂企業文化部マネージャー	地域芸術祭「かけがわ茶エンナーレ」を振り返って
第65回	大橋史人	建築家	建築家としてのアートイベント参加と具体的事例
第66回	野井保由	野外保育ゆたか代表	自然と子ども～生活と文化を野外保育から考える～
第67回	平野雅彦	ふじのくに文化情報センター長	ふじのくに文化情報フォーラム2018を かじる
第68回	丸山研二郎	シンガーソングライター、ギタリスト	初音源化!「静岡県郷土唱歌」～戦前の唱歌復活とオリジナルアレンジについて～
第69回	仁科太一	静岡大学人文社会科学部4年(ドイツ演劇専攻)	社会にゼロンを巻き起こす～ドイツ演劇の魅力～
第70回	早津静香	しずおかHEART防災プロジェクト (株)SBSプロモーション	しずおかHEART防災キックオフイベント「未被災地のための防災アートは可能か?」を振り返る

ミニ講座「こかげのまなびば」



ミニ講座 こかげのまなびば 開催一覧 (2015.4.14～)

開催回	講師	所属等	テーマ
第71回	本原令子	美術家(陶芸家)、登呂会議代表	地を耕したら、知を耕しちゃった。～登呂遺跡は、学びのおそび場～
第72回	深野裕士	(一社) マチテラス製作所代表理事	『問いを開く』対話の場
第73回	土肥潤也	NPO法人わかものまちなち代表理事	わかものかどうかかわればいいのか?
第74回	松浦一樹	マツウラコーヒー	マツウラコーヒーで大切にしていること
第75回	井谷晋弥	戸田書店 静岡本店店長	リアル書店のこれまでとこれから
第76回	添島円	D&DEPARTMENT SHIZUOKA by TAITA ショップ店長	ロングライフデザイン 消費と文化
第77回	磯谷仁	(有)きのいい羊達代表取締役	あそびの魅力 ～50m飛び牛乳パック、指1本で1000曲吹ける ほか～
第78回	高部葉子	仕立士、イト デザイン アンド クチュール代表	衣食住の“衣”って何? ～着ることを考える～
第79回	松岡速人	TAKE HEART BEAT バンドマスター	音楽の新しい可能性とサウンドを求めて ～ビッグバンドジャズオーケストラへの挑戦～
第80回	佐藤剛史	ストリートフェスティバル・イン・シズオカ実行委員会会長、伽藍博物館	ストフェス終わるってよ～アートフェスティバルをきれいに終える今～
第81回	橋本ムツ子 山岸和子	清水郷土史研究会副会長	郷土の歴史を楽しもう
第82回	海野豊	静岡シネ・ギャラリー副支配人	ミニシアターの魅力 ～日常と非日常の間～
第83回	平野雅彦	ふじのくに文化情報センター長	アートフェスティバルを見に行こう
第84回	ウルフリド・ゴンザレス	ラタン造形・ワイヤー造形作家	[アーティストトークスペシャル] 喜びづくり/心の平和づくり
第85回	増井由美子	駄菓子屋Peco	駄菓子屋から過去・未来へ“タイムスリップ”
第86回	KISSER	プロマジシャン	マジシャンとは
第87回	田中亜希子	ピアニスト、グランシップアウトリーチ登録アーティスト	ピアノを弾く、伝える、広げる。
第88回	佐藤愛也	声楽家(ソプラノ)、オペラ デイ モード主宰	オペラとマニアックなわたし
第89回	谷津倉龍三	富士の山ピエンナーレ実行委員長	富士の山ピエンナーレ2018を振り返って
第90回	北島順子 小橋香穂	hand in hand、フードフォトスタイリスト hand in hand、野菜ソムリエ	日本を感じられる小さくて可愛い文化「野点プロジェクト」
第91回	スナオマサカズ	フリーパーソナリティ	声をつかって自己表現! っておもしろい
第92回	本間義章	建築家	「と建築」を考えつづける。
第93回	青木三枝	おかえりの森主宰	記憶の中に愛を見つけて行こう!
第94回	平野雅彦	ふじのくに文化情報センター長	アートと環境
第95回	カトウマキ	アーティスト	日々の私 ～雑草に魅かれて～
第96回	永嶋美佳	森の読書室Liferary主宰	読書となかよくつきあう方法、いつまでも
第97回	木下聡	しずおかSDGsネットワーク代表	ライフスタイルから考えるSDGs
第98回	萩原智美	静岡市観光交流文化局 まちは劇場推進課	この世界は、すべて舞台だ。～まちは劇場の推進とは～
第99回	漆畑ゆう子	旅する造形家	第2の故郷は首長族の村 ～アートを通して会話する～
第100回	久保田香里 大石和奏 鈴木春香 平野雅彦	静岡デザイン専門学校校長 同学校グラフィックデザイン科3年 // ふじのくに文化情報センター長	街のチカラ「デザイン×若者」
第101回	春日井一平	俳優	おらっち履歴書 ～Uターンする俳優、春日井一平～
第102回	山作戦	音楽家	俺流でいい歌を伝える ～紅白に出られるといひですなって言わないで～
第103回	岸本年郎	ふじのくに地球環境史ミュージアム	虫を分けて、まとめて、解ること～昆虫分類学の話～
第104回	下大澤志保	キャリアコンサルタント、(株)SNOPPI creation	2年目のあの子、辞めたいって～社員と組織の新しい関係～
第105回	植山利彦	日本人形博物館・日本招き猫館館長	猫・人形・博物館
第106回	宮入由起 宮入義憲	うつわ 暮らしの道具 テクラ	テクラの生き方 ～暮らしを豊かにする「モノ」と「コト」～
第107回	泰井良	静岡県立美術館上席学芸員、美術史家	私が美術史家になったわけ

開催回	講師	所属等	テーマ
第108回	望月琢矢	(株)左京 四代目後継者	これからの雛人形の話をしよう
第109回	佐藤浩司郎	画家	絵ってなんだろう?存在ってなんだろう?
第110回	あまる	大道芸人、あそvival小劇場主宰	まちにはみ出す小劇場のワ! ～劇街ジャンクションが七間町で広がるおまのあそびば～
第111回	宮城嶋遥加	SPAC俳優	静岡生まれ、静岡育ちの舞台女優♡
第112回	平野雅彦	ふじのくに文化情報センター長	Xmas Nightに本で遊ぶ
第113回	一柳綾乃	絵描き、デザイナー	暮らしの中で描いていく。
第114回	萩原まお	イラストレーター	静岡で、イラストレーターとして生きる
第115回	あべよしみ	ボイストレーナー、スタジオ「演劇研究所」主宰	朗読のススメ
第116回	大橋美月	トータルディレクター、高校教師	“生き方を魅せる”という生き方
第117回	山口純世	きものここのち透佳店長	着物解体新書
第118回	杉山雅彦	写真家	[楽しい]が世界を変えていく
第119回	石上和弘	彫刻家	木で作って考える、私の彫刻の居場所
第120回	池谷洋美	静岡信用金庫 営業推進部	地域と人とのつながり
第121回	市原健太	水曜文庫	読まれた本はどこへ行くか ～古書の行方～
第122回	天野浩史	NPO法人ESUNE 代表理事 大正大学地域構想研究所 地域支局研究員	今、改めて考える「場をつくる」ということ

ミニ講座 こかげのまなびば@オンライン 開催一覧 (2020.5.20～7.1)

開催回	講師	所属等	テーマ
第1回	平野雅彦 横山央	ふじのくに文化情報センター長 静岡県文化財団職員	今後のこかげのまなびばについて
第2回	杉浦麻友美	にっこりなごやかスタジオ主宰 はままつ・つながり・アート代表	好奇心を持って生きる
第3回	小林成彦	采(さい)映像制作主宰	帰る場所を撮る ～移住して5年目の生活～

出張企画 ミニ講座 こかげのまなびば 開催一覧 (2020.8.29)

開催回	講師	所属等	テーマ
第1回	木村若菜	現代美術作家、仏画師	マークから始まる表現 ～一つのマークは、コミュニケーションをつくり、会話を育む～

事業の成果と課題

- 講師と参加者が、互いに話し聞くことで、気づきの共有や、自分自身の価値観を再認識するなど、発見に富んだ機会となっている。
- 講師が活動を始めた動機や想いから今後の展望まで、講師にスポットが当たる回もあれば、運営の仕組みや考え方を学ぶHOW TO講座、その道を究めた人の専門的な話など、テーマや内容は多岐にわたるため、関心のあるテーマをきっかけに参加する方も多い。
- さまざまな分野で活躍する延べ100名以上の講師との出会いは、その後もセンターの他事業へのゲスト出演や、文化芸術分野の専門的な人材として外部への紹介、事業とのマッチングが成立するなど、センター運営においてかけがえのない財産となっている。
- コロナ禍によりオンライン配信という新たな手法にもチャレンジしたが、さらに同様の対話の場を県内に拡げていくための働きかけが課題である。
- より双方向的な対話の場の促進と、この場をきっかけに新たなコミュニティが生まれるような工夫が必要である。

ふじのくに文化情報フォーラム

静岡県内で広く文化芸術活動をしている人たちが、エリアを越え、ジャンルをまたぎ、交流する場を創出する「文化情報フォーラム」。各回趣向を凝らしたテーマで行い、文化に関わる者同士が思考を深め、つながり合い、新しいネットワークを構築するきっかけをつくっている。

01 第1回 文化プログラムとこれからの地域



「文化団体や文化芸術が社会に果たす役割や課題」をテーマに開催。トークセッションでは「文化プログラム」をトピックスに挙げ、これからの文化活動や地域づくりについてディスカッションをした。

基調講演

「いま、アートができること ～『共感価値』が生む地域の可能性～」
椿昇 / 現代美術家

トークセッション

「文化芸術と地域のつながりを考える」
椿昇 / 現代美術家 岩瀬智久 / 静岡県文化政策課 平野雅彦 / ふじのくに文化情報センター長

【開催日】2016年3月6日(日) 【会場】グランシップ会議ホール・風 【参加者数】120人

※開催時の順番、以下同じ。

02 第2回 対話する時代のネットワークを考える



「ネットワークの形成」をテーマに、その意義や有効性を実践事例で紹介。交流プログラムではさまざまな課題を持ち県内で活動する20人のリーダーと来場者が、ワールドカフェ形式で対話し、新たな気付きやネットワークが生まれた。

基調講演

「ローカルカルチャーのつくり方 場×メディアで地域を“編集”する」
影山裕樹 / 編集者、プランニング・エディター

交流プログラム

「20's Doors ～未来へと続く20のドア～」
進行：井上泉 / シズオカオーケストラ主宰 平野雅彦 / ふじのくに文化情報センター長

【開催日】2017年3月4日(土) 【会場】グランシップ会議ホール・風 【参加者数】159人

- 【リーダー】
- ① デレック・バトン / 建築家、(株)WEST COAST代表
 - ② madoi / 発酵食スペシャリスト、発酵食料理研究家
 - ③ 内藤孝次&村上順一 / グラフィックデザイナー&カメラマン
 - ④ 今井洋志 / NPO法人静岡フューチャーセンター・サポートネットESUNEディレクター
 - ⑤ さかいともこ / 動物園散歩人(元・動物園ライター)
 - ⑥ 生形秀之 / オートバイレーサー、レーシングチームオーナー
 - ⑦ 奈良岡将英 / 静岡新聞社・静岡放送、社長室経営戦略推進部副部長
 - ⑧ かん吉 / ブLOGGER、Webマーケター
 - ⑨ 望月祐 / BARATEE編集部
 - ⑩ 戸井田雄 / 混流温泉(株)代表取締役、海辺のあたまマルシェ事務局長

- ⑪ 成島洋子 / SPAC-静岡県舞台芸術センター芸術局長
- ⑫ 菅沼新太 / 大道芸ワールドカップ実行委員会チーフディレクター
- ⑬ Kisser / プロマジシャン
- ⑭ 柴山広行 / 丁子屋14代目
- ⑮ 丹羽崇元 / 僧侶(一乗寺住職兼洞慶院事務局長)
- ⑯ スナオマサカズ / ラジオDJ、レポーター、ナレーター
- ⑰ 鈴木駿矢 / コロニーリンク代表、コクーンベース静岡運営事務局代表
- ⑱ 望月大二郎 / 見習い茶農家、ペーパー講師、ドローンオペレーター
- ⑲ 杉山稔明 / 志太こどもミュージカル演出
- ⑳ 道川綿未 / 第4回ささま国際陶芸祭事務局長

リーダーの声

色々な人が繋がれば、面白いことが出来そうだと感じる事ができた。

03 第3回 で・あえる ～あなたとわたしでなにかがはじまる～



年代や取り組み活動がさまざまな参加者がグランシップに会い、「1対1での対話」を20人と繰り返しながら、互いに協働の可能性を探った。

トークセッション

「対話による問題解決」
甲賀雅章 / (株)シーアイセンター代表 平野雅彦 / ふじのくに文化情報センター長

対話プログラム

「あなた×わたし」
進行：永松典子 / (株)静岡編集舎代表取締役

【開催日】2017年10月15日(日) 【会場】グランシップ交流ホール 【参加者数】80人

- 【リーダー】
- ① 内田美紀子 / (株)るるキャリア代表取締役
 - ② 澤野宏史 / 狩猟者、獣肉処理業
 - ③ 橋本敬之 / NPO法人伊豆学研究会理事長
 - ④ 小林稔和 / (株)DARA DA MONDE代表
 - ⑤ 鈴木一郎太 / (株)大と小とレフ取締役
 - ⑥ 山本紗祐里 / コミュニティシェアハウスCoCoRu管理人、コミュニティベースふらっと管理人
 - ⑦ 海野農 / サールナートホール副支配人
 - ⑧ 金子敦史 / 「一坪のお茶席」プロデューサー
 - ⑨ 青木木子 / こどもアートスタジオプロジェクト主宰、鶴江アートセンターアートコーディネーター
 - ⑩ 木庭英之 / 松坂屋静岡店店長スタッフ 装飾・デジタル担当
 - ⑪ 宮城嶋運加 / 東京大学大学院総合文化研究科修士課程、2017年度SPAC俳優
 - ⑫ 南荘撰 / 浄土真宗本願寺派教覚寺住職、神和学園エスコラフジ非常勤講師
 - ⑬ 浅羽克典 / 学芸員
 - ⑭ 新名隆大 / テレビ静岡制作部チーフプロデューサー
 - ⑮ 谷津倉龍三 / 富士の山ピエンナーレ実行委員長
 - ⑯ 松島章恵 / 日本茶インストラクター、しずおかO-CHAプラザ専属講師
 - ⑰ 中村透 / グランシップ芸術監督、作曲家・芸術文化学博士、琉球大学名誉教授

04 第4回 未来をつくる15のテーブル



基調講演では講師からアイデアを実現させるまでの事例や手法を学び、その後行われた対話プログラムでは、文化活動に向き合う15人のリーダーを中心に、活動への思いや課題を共有し、次のステップに向けて参加者でアイデアを交換した。

基調講演

「参加者主体の交流の場の創造 ～アイデアを形にするために～」
山浦晴男 / 情報工房代表

対話プログラム

「未来をつくる15のテーブル」

【開催日】2018年3月10日(土) 【会場】グランシップ会議ホール・風 【参加者数】103人

- 【リーダー】
- ① 柴山広行 / 丁子屋14代目
 - ② 谷津倉龍三 / 富士の山ピエンナーレ実行委員長、(株)ヤツラ代表取締役社長
 - ③ 羽鳥祐子 / かけがわ茶エンナーレ 原田・原泉エリアコーディネーター兼デザイナー、ventana代表
 - ④ 野沢夕紀子 / シニアダンスカンパニー「恋するシニア」、市民ダンスチーム「駿府町HAPPY 舞踊団」プロデューサー、静岡コミュニティダンスプロジェクト実行委員会(SCDP)メンバー
 - ⑤ 京井麻由 / 野外保育ゆたか代表
 - ⑥ 道川綿未 / 第4回ささま国際陶芸祭事務局長
 - ⑦ 松下理恵子 / BACCO Design
 - ⑧ 戸井田雄 / 混流温泉(株)代表取締役
 - ⑨ 木庭英之 / 松坂屋静岡店店長スタッフ 装飾・デジタル担当
 - ⑩ 住麻紀 / アートマネージャー、三島の文化応援プロジェクト、Scale Laboratoryメンバー
 - ⑪ 坂田芳乃 / アートワーク三島人
 - ⑫ 高橋晃一朗 / NPO法人音楽の架け橋メセナ静岡事務局
 - ⑬ 金子敦史 / 金子敦史建築計画工房代表、「一坪のお茶席」プロデューサー
 - ⑭ 牧野秀紀 / フリーランス(コミュニティデザイナー)、東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科4年
 - ⑮ 丹羽崇元 / 一乗寺住職(洞慶院執事)

参加者の声

アイデアや考えをまとめる過程が勉強になった。



つなげる

参加者の声

静岡で活動している方々との出会いで刺激を受けた。

05 第5回 文化の種を見える化する



「文化の種」と称した、県内で文化活動に関する「人」や「活動」などの情報を参加者が持ち寄り、16人のリーダーを中心に各テーブルで「文化の種」の情報を交換しながら、マッピング作業を行った。このように可視化することで、参加者はこれまで知らなかった「人」や「活動」を知る機会となり、新たなコラボレーションのアイデアも生まれた。

交流プログラム
「文化の種を見える化する」
進行：甲賀雅章 / (株)シーアイセンター代表
平野雅彦 / ふじのくに文化情報センター長

- 【開催日】2018年10月14日(日) 【会場】グランシップ交流ホール 【参加者数】67人
【リーダー】
- ①羽鳥祐子 / 原泉アートプロジェクト代表、デザイナー
 - ②市川善忠 / オペラ ディ モード代表
 - ③大石歩真 / NPO法人クロスメディアしまだ理事長
 - ④大木真実 / グラフィックデザイナー、NUMAZU DESIGN CENTER 代表、スキマcinema 主宰
 - ⑤兒玉絵美 / NPO法人クロスメディアしまだ事務局長
 - ⑥後藤康志 / (公財)浜松市文化振興財団文化事業課長
 - ⑦坂田芳乃 / アートと地域をつなぐ アルテ・プラザ代表
 - ⑧柴山広行 / 丁子屋14代目
 - ⑨土肥潤也 / NPO法人わかものまぢ代表理事
 - ⑩丹羽崇元 / 僧侶(一乗寺 住職兼洞慶院執事)
 - ⑪長谷山高士 / ダンサー、ダンス講師、演出家、建築士、LaN-T003代表
 - ⑫深野裕士 / (一社) マチテラス製作所代表理事
 - ⑬松岡速人 / TAKE HEART BEAT Big Band Jazz Orchestra バンドマスター
 - ⑭宮城嶋遥加 / SPAC俳優、東京大学大学院総合文化研究科在学中
 - ⑮彌田徹 / 建築家
 - ⑯レネ紗矢香 / 歌手、Jazz IZU実行委員会代表

06 第6回 創造思考のイロハを学ぶ



いつもと違う視点や発想方法を体感する、創造思考型ワークショップ。演劇的手法も取り入れ、グループワークの発表を寸劇で行うなど、アウトプットの方法を変えることで、モノを捉える視点が変わり、話し合いのプロセスや思考にも変化が生まれることを体感した。

創造思考型ワークショップ
「創造思考のイロハを学ぶ」
ファシリテーター：中脇健児 / 場とコトLAB代表 渡邊裕史 / 劇団ソノチ
ナビゲーター：甲賀雅章 / (株)シーアイセンター代表

- 【開催日】2019年2月11日(月・祝) 【会場】グランシップ会議ホール・風 【参加者数】108人
【リーダー】
- ①森佑司 / 古籟荘に親しむ会事務局長
 - ②橋本敬之 / NPO法人伊豆学研究会理事長
 - ③hand in hand / フードスタイリスト北島順子、野菜ソムリエ小柳香穂
 - ④鈴木秀実 / フジバク地域応援ボランティア
 - ⑤川村結里子 / 企業×行政×学生 地域共創プラットフォーム
 - ⑥倉田布美江 / (一社)ふくろいコミクス代表理事、空間創造工房倉布人(くらふと)
 - ⑦青木三枝 / おかえりの森主宰、広告デザイナー
 - ⑧友野可奈子・吉田朝麻 / ZING(イラストレーター・ミュージシャン、デザイナー)
 - ⑨狐野トシノリ / 劇作家、演出家、パフォーマー、演劇ユニットFOX WORKS
 - ⑩中谷明史 / kissa山ノ舎 山ノ舎社代表
 - ⑪岩本陽子 / 走るイラストレーター
 - ⑫松木季代子 / 日本夜市実行委員会事務局長、(株)ボクラノマチ代表取締役
 - ⑬繁田和美 / 空間デザイナー、VMDコンサルタント
 - ⑭井上泉 / シズオカオーケストラ
 - ⑮野沢夕紀子 / Dance Celebration代表

リーダーの声
自分を見つめなおす良い機会であったし、楽しく気付きを得ることができた。

07 第7回 あなたの「好き」で文化がかわる!?



10組のリーダーが用意したアート、演劇、歴史など、多種多様なワークショップを体験。その後、体験したワークショップをもっと面白く進化させるにはどうしたら良いか、参加者は自分自身の「好きの力」を用いて、アイデアを交わした。

リーダー創案ワークショップ
「あなたの「好きの力」で、体験したワークショップをさらに進化させよう」
ファシリテーター：天野浩史 / NPO法人ESUNE代表理事
ナビゲーター：平野雅彦 / ふじのくに文化情報センター長

- 【開催日】2020年2月11日(火・祝) 【会場】グランシップ会議ホール・風 【参加者数】123人
【リーダー】
- ①漆畑ゆう子 / 旅する造形作家
 - ②渡会美帆 / 作曲家
 - ③杉浦麻友美 / はままつ・つながり・アート代表、身体の動きの専門家
 - ④丹羽崇元 / 一乗寺住職(洞慶院執事)
 - ⑤河村洋子 / 静岡文化芸術大学文化政策学部・准教授
 - ⑥hand in hand / フードスタイリスト北島順子、野菜ソムリエ小柳香穂
 - ⑦シズオカオーケストラ
 - ⑧小林成彦 / 采(さい)映像制作主宰
 - ⑨関根淳子 / 演出家、SPAC俳優
 - ⑩橋本敬之 / NPO法人伊豆学研究会理事長

参加者の声
人と話すことで、自分が気付かなかった好きなことに気付けた、新しい発見が生まれた。

08 第8回 転換点 ～文化は何に学ぶのか～

新型コロナウイルス感染症により、私たちの日常も大きな変化を余儀なくされている現在、「転換点」をテーマに、ゲストとの対話を通して、他分野から文化の視点に生かせることは何かを学ぶフォーラム。初めてグランシップを飛び出し、県内東部、西部にて開催。



in 三島
【開催日】2020年11月3日(火・祝)
【会場】三島市民文化会館大会議室・オンライン
【共催】三島市
【ゲストスピーカー】
山崎かおり / (株)山崎製作所代表取締役
荒武優希 / NPO法人ローカルデザインネットワーク理事長、合同会社湊庵代表社員
杉浦麻友美 / はままつ・つながり・アート代表、動き改善ポディコンサルタント、舞踏家
ファシリテーター：天野浩史 / NPO法人ESUNE代表理事
ナビゲーター：平野雅彦 / ふじのくに文化情報センター長

in 浜松
【開催日】2021年2月20日(土)
【会場】浜松市鴨江アートセンター301号室・オンライン
【共催】浜松市鴨江アートセンター
(指定管理者:浜松創造都市協議会・東海ビル管理グループ)
【ゲストスピーカー】
畑山響子 / 低糖質おやつとコーヒーLocco店主
杉山浩之 / (株)販売促進研究所代表取締役社長
関根淳子 / 演出家、SPAC俳優
ファシリテーター：天野浩史 / NPO法人ESUNE代表理事
ナビゲーター：平野雅彦 / ふじのくに文化情報センター長

事業の成果と課題

- 対話や交流を重視したプログラムは、参加者が主体的に参加し、文化芸術について考え、共有し、掘り下げる機会となっている。
- フォーラムへの参加をきっかけに、参加者同士がコラボレーションして新しい企画を立ち上げるなどの動きが自然発生的に生まれた。
- センターを中心に県域レベルで東中西の地域やジャンルを横断したネットワークが構築された。
- フォーラムから展開した取り組みとして、参加者による企画の実現を支援するワークショップを実施できた。
- 企画から運営まで、地域で活動する人たちと一緒にフォーラムを作り上げることができた。また、センターとして対話の場づくりの運営ノウハウが蓄積された。
- 既に文化芸術活動の実績やネットワークを持っている人にも、さらに活動を発展させるため、新しい発見や学びの機会を提供していくことは重要な役割である。
- 年2回開催とすることで文化活動実践者が定期的に集う場を作ることができたが、中長期的な構想を持ち、フォーラム全体の年度を越えた大きな流れ、展開をつくる必要がある。



ふじのくに文化情報フォーラム 個別テーマ実践プログラム

文化芸術活動に関わる人たちが集い交流する場「ふじのくに文化情報フォーラム(P11-P14)」から展開した取り組みとして、文化活動の実践につながるステップアップのためのワークショップを実施した。

フォーラムに参加したリーダーが企画するプロジェクトについて、グループごと「寄り合いワークショップ」を進めながら、アイデアを実現させるためのプロセスを学ぶ。

フォーラムから生まれた新たな文化活動の芽を、活動実践という次の展開まで結びつけるための継続的な伴走支援を行うことで、参加プロジェクトは活動の発展につなげている。

ワークショップの流れ

- [1] 課題や現状を共有する「問題意識地図」を作成
- [2] 写真取材の分析から地域に実態を把握する「資源写真地図」を作成
- [3] イラストアイデアを持ち寄り「解決策地図」を描き、それを基に実行計画を作成
《各プロジェクトの実践》
- [4] 実践した内容・記録写真をもとに「検証写真地図」を作成、今後の活動を再計画

講師：山浦晴男／情報工房代表、千葉大学大学院看護学研究科特命教授
文化人類学者川喜田二郎氏のもとでKJ法の研究と普及に20年間従事。その後情報工房を設立、企業・行政・医療機関の人材育成や組織活性化、地域再生支援に携わる。

アシスタント：深野裕士／一般社団法人マチテラス製作所代表理事
2014年一般社団法人マチテラス製作所を裾野市に設立。持続可能な地域づくりのため、人と人をつなぐ「機会」や「場」を創造し提供している。

※開催時の所属、以下同じ。

平成30年度

プロジェクト

①「地域のアーティストとまちをつなぐ」(三島市)
三島市を中心とした県東部地域の文化・芸術活動を支援し、地域のアーティストが日常的に活動できる街をつくる活動。
坂田芳乃／アルテ・プラサ ほか

③「地域の課題を現代アートで解決する」(掛川市)
掛川市北部の山間地、原泉地域において、現代アートの展示やアートプロジェクトによる地域課題の解決や地域活性をする活動。
羽鳥祐子／原泉アートプロジェクト ほか

②「東海道で綴るワタシ旅」(静岡市)
東海道の魅力を再発見し、多くの人たちに東海道を楽しんでもらうための、静岡市内の各宿場エリアを中心とした地域づくりの活動。
柴山広行／丁子屋14代目 ほか

スケジュール
第1回:6月9日(土)／第2回:7月1日(日)
第3回:7月29日(日)／第4回:2019年3月16日(土)
[参加者数]52人(延べ人数)



参加者の声
複数人のグループで作業を行う中で、自分1人では思いつかないような切り口があった。

令和元年度

プロジェクト

①「南伊豆町子浦の路地歩きで文化を紡ぐ」(南伊豆町)
南伊豆町子浦の路地及び空き地を利用し、交流人口を増やし賑わいを取り戻す活動。
橋本敬之／特定非営利活動法人伊豆学研究会 ほか

②「夜景電車とまち歩きから発信する地域の魅力」(富士市)
富士山の麓周辺の地域活性を目的に、岳南鉄道での夜景電車企画など様々な地域体験プログラムを行う活動。
鈴木秀実／フジバク 地域応援ボランティア ほか



③「誰もがダンスに参加し、人生を豊かに素敵に過ごすために必要なこと」(静岡市)
こどもからシニアまで、様々な立場の方々を対象としたワークショップやダンス公演の企画を制作し、誰もが踊れるダンスを通じて、社会とダンスを繋げる活動。
野沢夕紀子／Dance Celebration ほか

スケジュール

第1回:5月26日(日)／第2回:6月29日(土)
第3回:8月3日(日)、9月21日(土)※2日間実施
第4回:2020年3月8日(日)

[参加者数]63人(延べ人数)

参加者の声
プロジェクトについて、言語化、視覚化することで、やるべきことがはっきり意識化できた。写真を用いたワークは、イメージが広がりやすかった。

令和2年度

プロジェクト

①「あなたの大切な記憶を アートの力でカタチに」(浜松市)
親子のコミュニケーションを、「思い出」をキーワードに大切な想いをカタチにするプログラムを広める活動。
青木三枝／おかえりの森 ほか



②「おとどけ劇場を定番化したい!子ども病棟や施設への寄付公演を軌道にのせ、オープンにしていくには?」(静岡市)
重度障がい児の長期入院病棟や里親家庭、自立援助ホームなどに音楽劇や演劇ワークショップを届ける活動。
関根淳子／SPAC俳優、劇団音乃屋 ほか

スケジュール

第1回:10月10日(土)／第2回:11月7日(土)／第3回:12月5日(土)

[参加者数]12人(延べ人数)

助成:(一財)地域創造

事業の成果と課題

- 参加プロジェクトは、ワークショップを通して、これまでの活動を客観的に振り返り、より実践的な計画を立てることができた。
- 次年度に向けた計画づくりまで一貫して行うことで、一過性ではなく引き続き活動を継続していくための道筋を作ることができた。
- 複数のプロジェクトが参加することで、参加者同士が互いに違う視点、新しい気づきに触れ、刺激し合える交流の場にもなっている。
- 現行のワークショップを基本としながら、他の視点や手法を取り入れたワークの可能性について検討が必要。
- 実践プログラム終了後、参加プロジェクトが各地で発展的に活動できるためのフォローを充実させるとともに、ワークショップを活用したセンターと文化活動実践者の協働プログラムとして、次なるステージの用意が課題。

めぐるリアート+ プラス

静岡市、静岡県立美術館、静岡市美術館が主催する「めぐるリアート静岡」との連携事業。これまで「めぐるリアート静岡」に関わったアーティストへの新たな発表の場の提供に加え（プラスし）、ショーウィンドウをはじめとしたグランシップ館内共有スペースにアート作品を展示することにより、来館者が文化・芸術を身近に感じられる空間を創出している。



佐藤浩司郎「ぼくを わたしを さがして」



石上和弘「船に浮かぶ形 / 船が浮く形」

●2018年5月～10月
大杉弘子（書家）
「阿摩羅不可思議」

●2018年10月～2019年4月
ウィルフリド・ゴンザレス（造形作家）
「喜びづくり / 心の平和づくり」

●2019年5月～10月
御宿至（彫刻家）
「SOMETHING GREAT～記憶の風景～」

●2019年10月～2020年4月
佐藤浩司郎（画家）
「ぼくを わたしを さがして」

●2020年4月～9月
石上和弘（彫刻家）
「船に浮かぶ形 / 船が浮く形」

グランシップ文化情報サポーター

ふじのくに文化情報センターは、県内各地からボランティアスタッフとして参加しているサポーターとともに、静岡県の文化振興に取り組み、センターの円滑な事業運営を進めている。

■活動内容

- 静岡県文化情報サイト「ふじのくに文化情報」の管理・運営
- グランシップ1Fふじのくに文化情報センターの管理・運営（チラシ・ポスターの配架作業ほか）

■サポーター人数

101名（延べ数）※平成27年度～令和2年度

サポーターの声

サポーター活動をきっかけに「ふじのくに文化情報フォーラム」や「こかげのまなびば」などに参加するようになり、新しい出会いや価値観によって、世界が広がった。



サポーターの声

活動を通して、これまで接点のなかったクラシック、伝統芸能などの文化芸術に触れ、関心を持つようになった。



センター長（写真中央）

おわりに

ふじのくに文化情報センターが2015年に開所して早5年が経ちました。この間、大型の自然災害はもはや日常の出来事となり、社会システムにおいても実に多くの変化がありました。主にインターネットを通じたグローバル化はとどまるところを知らず、その一方で、先進国の間ではいくつもの寸断が起きるとい反グローバル化の動きも顕著になってきました。メディアとの関わり方、使い方も激変しており、一国の主が政治的重要事項をSNSで発表、その一言一句に世界中が踊らされるという始末です。

日本においては、平成から令和に移ったことは、その変わり方を含め大きなトピックとなりました。文化芸術の分野でいえば、芸術祭における表現の「不自由・自由」を巡って国を巻き込んだ大論争になったことは記憶に新しい出来事です。

そうして、今、この文章を綴っている2020年10月の半ばにあっても、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響は文化芸術の分野にも大きな陰を落としています。この影響で、これまでは見過ごされてきた（あるいは見て見ぬふりをされてきた）文化芸術分野の諸問題が改めて照らし出されました。当たり前のことが当たり前でできないという事柄に直面したアーティストや文化施設は、やむなくネットを中心に多くのコンテンツを発表していますが、その中から新しい表現方法が誕生していることも見逃せません。

さて、ふじのくに文化情報センターはそんな激変する5年の間に、時には時代のニーズという波にのり、時には強い必要性を感じて、主に地域の団体や個人の活動を下支えし（下支えする取組を下支えする）、静岡県内に文化芸術がわきあがる環境を整えることを活動の柱に据えてきました。「ふじのくに文化プログラム推進事業補助金」「相談窓口」「こかげのまなびば」「文化情報フォーラム」「個別テーマ実践プログラム」といった人と人、地域と人、地域と地域を結びつける取組はその一例です。本書の各ページに記したとおり、そこには多くの学びや発見もあり、同時に改善点も見えてきました。

文化情報センターは、2020年度をもってその活動を一旦終了し、新しい組織「アーツカウンシルしずおか」が、これまでの成果や精神を生かして事業展開していく予定です。今回この記録集に明示できた成果を、より効果的な形で新組織にバトンを渡せたらと強く思っています。この5年間、文化情報センターを支えてくださった多くの皆様に、この場をもってお礼申し上げます。

ふじのくに文化情報センター センター長 平野 雅彦